研究計画

１　研究主題

「考えの形成」を支える指導の工夫

～読み取るための活動と学び合いを通して～

２　主題設定の理由

（1）　教育の今日的な課題から

新学習指導要領は，小学校は２０２０年から全面実施となり，今年３年目を迎えた。

現状としては，今までの学習指導要領等に基づく取り組みの成果として，国内外の学力調査の結果によれば改善傾向にある。一方，課題として

・判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べること（社会への参画）

・情報化の進展に伴う読解力の低下

・豊かな心や人間性を育む子どもたちの体験活動の不足

などが挙げられている。また，「教科書の文章を読み解けていない」との調査結果もあり，「子どもたちが情報を的確に理解し，自分の考えの形成に生かしていけるようにすることには依然として課題が指摘されている」（中教審答申）という現状もある。

こうしたことから，新学習指導要領では，次の６点に沿った枠組みが作られた。

①「何ができるようになるか」　②「何を学ぶか」　③「どのように学ぶか」

④「子ども一人一人の発達をどのように支援するか」　⑤「何が身に付いたか」

⑥「実施するために何が必要か」　である。

この中でも，子どもたちが①「何ができるようになるか」を重視し，各教科等の指導に当たっては，どのような資質・能力を目指すのかを明確にするとともに，次の３点が偏りなく実現できるようにすることが示された。

・知識及び技能が習得されるようにすること。

・思考力，判断力，表現力等を育成すること。

・学びに向かう力，人間性等を涵養すること。

また，③「どのように学ぶか」では，「主体的・対話的で深い学び」が実現できているかといった学びの質に着目した授業改善の取り組みが期待されている。

（2）　学校教育目標から

本校では，「知・徳・体の調和のとれた心豊かなたくましい人間性の育成を目指して，個性や創造力の伸長を図り，社会性を培い，主体的に実践する児童を育成する」という目標のもと「すすんで学習する子ども」「心優しく思いやりのある子ども」「きまりを守り責任を果たす子ども」「元気に運動する

子ども」という４つの目指す児童の姿を掲げ，その具現化に努力している。

一つ目の「すすんで学習する子ども」を育成するために，本年度は「知識・技能の確実な習得と思考力・判断力、表現力の育成」を重点目標としている。どの教科の学習を取り上げても，とりわけ，文章で書かれた内容を理解し，考えを形成し，それを表現していくには，言語の能力が大いに必要になってくる。その言語を直接の学習対象とする国語科の指導を研究し，児童の言語能力を向上させていくことは，上記の重点目標を達成していく上で重要なことである。

（3） 子どもの実態から

本校の子どもたちは，好奇心が旺盛な子が多く，いろいろなことに興味・関心をもって取り組む姿が多く見られる。明るく活発で子どもらしい活力にあふれており，友達と遊んだり活動したりすることが大好きである。しかし，物事を掘り下げて考えることや，興味・関心にこだわらずに幅広く知識や技能を身に付けようとする気持ち，将来の夢を描いて今できることについて努力しようとする心に乏しい傾向が見られる。

また，語彙が乏しく，書かれていることの意味が理解できないため，国語科に限らず，算数科の文章問題や社会科の事象の理解においても，自力での解釈が難しい様子が見られている。また，言語を使って，自分の思いや考えを相手にわかるように表現できないため，授業の中での伝え合いがスムーズにできず，深まらない様子が見られる。さらに，生活においても自分の置かれた立場をうまく説明することができず，トラブルの回避を未然に防ぐことができない様子が見られる。

（略）

元年度のデータを見ると，学年間でばらつきは見られるものの，傾向として「書くこと」「読むこと」の落ち込みが目立つ。文章を正しく読む力が不足しており，内容をよく理解できない面が浮き彫りになっていると捉えている。また，令和２年度のデータを見ると，全国より本校の方が上回っている学年があるものの，やや下回っている学年が多く，特に「思考力・判断力・表現力等」でその傾向は強い。

令和３年度のデータからは，学年によって弱い領域があることも見て取れる。これらを底上げしていくことは，本主題に向けて取り組む上で必須と受け取れる。

（4） これまでの研究の成果と課題から

本校では平成２６年度より令和元年度まで国語科と算数科，理科並びに特別支援教育を研究教科とし，「自ら学び，考える力を伸ばす授業の創造～学ぶ喜びを味わわせる　子ども主体の学び合いを通して～」のテーマで研究に取り組んできた。そして，次のような成果が見られた。

○ 言語活動の設定により，問いを膨らませることができ，学習意欲の向上が図られた。
○ 学び合いが自然とできるようになり，自分の考えを伝達できるようになってきた。
○ 相手の考えに耳を傾け，共通点や相違点に目を向け，それをもとにさらに発言できるようになってきた。
○ 学級づくりを土台にし，発問の工夫をすることで，自信をもって発言することができる児童が増えた。
○ 児童は学びを再構築し，自分の言葉で書く力がついてきた。

しかし，児童の思考力を育てることにはつながったと考えられるが，学力的にみると「思考力，判断力，表現力等」の伸び悩みを示す結果となった。また，どれだけまとめの時間を充実できるか，また，家庭学習とどのように関連を図るかは大きな課題であった。このことから，学んだことを自覚させ，定着させる面において強化していく必要があると考え，令和２年度からは現在の研究主題のもとに研究を進めている。２年間の研究では，次のような成果が見られた。

(1) 最適の言語活動を設定して学習計画を立てたことで見通しがもて，毎時間の学習において目的意識をもたせることができた。ゴールの完成形（紹介カード，リーフレットなど）を示すことが有効であることも明らかになった。
(2) あらかじめ読む観点を決めて家庭学習に取り組ませたことは，叙述に気を付けながら読み取るという意識や意見交流への意欲を高めることにつながった。授業中の話合いの時間を確保できる点でもよい。
(3) 友達と意見を交流させる前に，自分の考えをもたせたことにより，その後の自分自身の考えの変化を自覚させることができた。
(4) 写真や映像，本，具体物，動作化などを用いて教材のイメージ化を図ったことにより，叙述についての深い理解につなげることができた。なお，叙述に着目させるためには，手法間での順序に注意が必要であることも分かった。
(5) 叙述や描写に着目するための有効な方法として，文章の構造を分かりやすく視覚化するとよいことが分かった。
・段落ごとに本文を区切る（ワークシート使用）
・観点ごとに色で区別する（サイドライン）
(6) 教材文の全文を掲示，あるいは全文のワークシートを使用することで叙述を基にした深みのある話合いができるだけでなく，文章を書くときの形式の確認に役立つなど学習を振り返る上での有効性を再認識した。

こうした成果がある一方で，課題としてはっきりしてきたことは，以下の点である。
(1) 最終的に何ができるようになるのかを常に念頭において指導する。
・ 指導事項を盛り込んだ単元構成表を作成している。意識をもち続けていく。
(2) 教材，あるいは学んだことを自分の生活や経験と結び付けて考えることができるようにする。
(3) ねらいや場面に応じて全文を掲示するかを検討していく。
(4) 考えを表出させる際の指導にさらに目を向けていく。
・ 話合いのねらいを明確にする。
・ 話合いの進め方を指導する。
・ 考えを書かせるときには例を文章でも示す。特に書き出しをどのようにするか。
(5) 普段の指導において，叙述に基づいて読み取っていく指導のスキルを高めていくことが必要である。

こうしたことから，今年度は，副題にもある「読み取るための活動」により目を向け，叙述に基づいて読み取っていく指導のスキル（リーディングスキル）の向上を図りながら本主題の下に研究を進めていくことにした。

３ 研究の構想

（1） 研究主題のとらえ方

「考えの形成」を支える指導の工夫　～読み取るための活動と学び合いを通して～

考えの形成

とは，自分の感想や考えをもつことである。

「読むこと」において「考えの形成」とは、文章の構造と内容を捉え，精査・解釈することを通して理解したことに基づいて，自分の既有の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめたりしていくことである。この学習過程には次のような位置付けと指導事項がある。

〔思考力，判断力，表現力等〕「C 読むこと」の指導事項

		第１学年及び第２学年	第３学年及び第４学年	第５学年及び第６学年
構造と内容の把握	説明的な文章	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。	段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること。	事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。
	文学的な文章	場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。	登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。	登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。
精査・解釈	説明的な文章	文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。	目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすること。
	文学的な文章	場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。	登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。
考えの形成		オ　文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。	オ　文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。	オ　文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。

共有	カ　文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	カ　文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	カ　文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。

また，話したり聞いたり書いたり読んだりするために共通して必要となる「知識及び技能」として，以下の事項ができることも，文章を理解することにつながる。

〔知識及び技能〕（２）情報の扱い方に関する事項

	第１学年及び第２学年	第３学年及び第４学年	第５学年及び第６学年
情報と情報との関係	共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
情報の整理		比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	情報と情報との関係づけの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

読み取るための活動

とは，国語科の「読むこと」の領域において行う言語活動を指し，その中でも次の学習活動が中心になるととらえる。

- 学習過程の中の「構造と内容の把握」「精査・解釈」に含まれる言語活動
- 情報の扱い方に関する事項「情報と情報との関係」「情報の整理」に含まれる学習活動

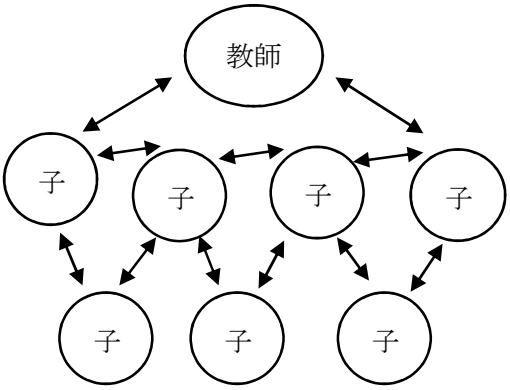
指導に当たっては，児童の発達や学習の状況に応じて言語活動を設定していく。

学び合い

とは，「子どもたちが，子どもの立場で学習の在り方を考え，教え合ったり，聞き合ったり，話し合ったりしながら学習すること」を最終目標に，教師主導の授業形態から，少しでも子どもたち同士が関わり合えるような学びに質的に変換していく「子ども主体の学び合い」と捉える。

授業を組織するに当たっては，教師と子どもたちのピンポン的な話合いでは

なく，子どもたちがパスをつないでゴール（本時のねらい）に迫るサッカーのイメージをもって創る。本校が，前年度までの研究の中で実践してきたことであり，これからもその実現に努力していく。イメージを図に表すと右のようになる。



学び合いの姿を段階で考えると次のようになる。

1．自分の考えを相手に伝える。（互いの理解の深まり）・・・・・・・・・・伝え合いの段階

2．教師主導による「予想」「繰り返しの再生」などの活動ができる。

3．分からない児童に教えることができる。（助け合い型の学び合い）・・・教え合いの段階

説明できる子は，思考・表現の高まり

説明を聞く子は，理解のきっかけ

4．グループで考えをまとめることができる。（思考の深まり）・・・・・話合いの段階①

5．予習してきたことを生かした話合いができる。（思考の深まり）・・・話合いの段階②

6．グループの話合いの中で考えを練り上げていく。（思考の深まり）・・・話合いの段階③

7．子ども主体による学び合いができる。・・・・・・・・・・・・・・課題解決型の学び合い

（2） 目指す子どもの姿

自分で理解したことや友達との学び合いから分かったことを基に，すでにもっている知識や体験と結びつけて考え，より広くより深く考えたり，あるいは自ら修正したりして表現する子ども

（3） 研究仮説

国語科の主に「読むこと」において，効果的な言語活動と学習課題を設定し，感想や考えをもつに至るまでの理解を確かなものにすれば，子どもは自分で理解したことや友達との学び合いから分かったことを基に，すでにもっている知識や体験と結びつけて考え，より広くより深く考えたり，あるいは自ら修正したりして表現するであろう。

（4） 研究の視点および内容

１年次は，視点を「効果的な言語活動と学習課題の設定」「考えを形成するに至るまでの理解」「感想や考えの表出」の３つとして研究を進めたが，授業実践を通して，２つの視点に整理できることが分かった。伴って，手立ても整理し，２年度より２つの視点で目指す子どもの姿に迫ることにした。

＜視点１:効果的な言語活動と学習課題の設定＞

児童がより主体的に目的意識をもって文章を読み，自分の考えをもつことができるようにするために言語活動を設定するが，それを効果的なものにしていく視点。

＜視点２:感想や考えの表出＞

授業の展開部分でいろいろ出される考えそのもの。あるいは、いろいろ話し合った後で，結局自分はどう考えたか，考えの質を高められたか、という視点。振り返りの中で出される感想も含めて考える。評価に直接つながる部分。

本時だけでなく，前時までの学習状況が大きく関係してくると思われる。

<table>
<tr><th></th><th></th><th>低学年</th><th>中学年</th><th>高学年</th></tr>
<tr><td rowspan="2">視点１
効果的な言語活動と学習課題の設定</td><td>目指す児童像</td><td>学習課題に向かって喜んで考えようとする子ども</td><td>自分なりの考えをもって，学習課題に向かう子ども</td><td>学習の見通しを持つことができる子ども</td></tr>
<tr><td>手立て</td><td colspan="3">①　単元全体の見通しの意識化
②　学習課題の設定の工夫（自分と教材とのかかわりを深める問いづくりなど）
③　家庭学習との関連</td></tr>
<tr><td rowspan="2">視点２
感想や考えの表出</td><td>目指す児童像</td><td>文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ子ども</td><td>友達の考えを取り入れながら，自分の考えを話したり，書いたりすることができる子ども</td><td>友達の意見と比べたり，取り入れたりして考えを深め，それを表現する子ども</td></tr>
<tr><td>手立て</td><td colspan="3">①　自分の立場の明確化（ワークシートの工夫，初めの考えと交流後の考えの変容を見るなど）
②　教材のイメージ化を図る工夫（動作化，場面絵，具体物，体験談　図や表など）
③　叙述や描写への着目（発問の吟味，大事な言葉や文章にサイドラインを引くなど）
④　考えの表出の場の設定（ペア，小集団での話合い　など）
⑤　板書の工夫（ネームプレートの活用，ポイントが分かるように，まとめにつながるように　など）
⑥　意図的指名</td></tr>
</table>

４　研究方法

（1）　研究の方針

①　新学習指導要領を踏まえ，育成する３つの資質・能力や指導事項を，教師自身が意識して取り組むことができるよう研修に努め，指導案の中にも明示する。

② 学力向上に関する会津教育事務所からの指導の重点，及び「喜多方市の学校教育～指導の重点～」との関連を確かめ，これらと本校の研究の方向性を共有する。

③ 学年の実態や発達段階を考慮しながら，教師主導から子ども主体の学び合いができるような手立てを模索し，実践しながら授業の質的改善を図る。（サッカー型の授業：前年度からの継続）

④ 子ども主体の学び合いができるようにするため，「ほおの木っ子学び合いのための基本」「ほおの木っ子学び合いの姿」は，前年度までの研究の成果として今年度も指導に生かしていく。なお，「聞き方・話し方」「第二小学校　学びとる子」も継続して指導していく。

⑤ 一人１回の国語科の授業研究を実践する。

教師は，学年単位で共に教材研究を行い，指導案を作成するなどし，学年内での研究を進める。学年内で先に行った授業の反省を後の授業に生かすようにする。

◇ **研究公開：　国語科２授業**

事前研究会：指導案検討を下学年と上学年の二手に分かれて行う。

事後研究会：全員+（校外参観者）＋指導者で行う。

◇ **校内研究授業：上記以外の研究授業**

事前研究会：指導案検討を低・中・高学年ブロックごとに行う。

事後研究会：同学年のペアが終了した段階で上記ブロックごとに行う。

⑥ 事後研究会で出された反省点をもとに，授業者は日々の授業の改善を図る。

⑦ 文章読解力をつけるための継続的な取り組みを行う。

例　・「喜多方市の学校教育」の 11 ページ（資料１　読解力を身に付けさせるために）を参照し，リーディングスキル確認問題に取り組む。

・授業において，「それ」「これ」などの指示代名詞が何を示すのか発問する。

・授業において，言葉の意味理解ができているか，主語と述語がどう係り受けしているか発問する。時には、選択肢を板書して児童生徒の理解度を把握する。

・文章の視写を行う。

⑧ 読書活動を推進する。

⑨ 全学級「hyperQ－U」を実施し，研修を通して結果を分析し，対応策を実践していくことで，学びの集団の基礎となる学級力の向上を図る。

⑩ 学級のめあてを学級力の向上に結び付け，学級力を可視化することにより，学級のよさを互いに確かめたり改善策を考えたりする。（学級力レーダーチャート）

⑪ 「ほめ言葉のシャワー」に取り組むことで，学習集団の基礎作りを行う。

「ほめ言葉のシャワー」の基本スタイル

「ほめ言葉のシャワー」とは，一人一人のよいところをクラスみんなで見付け，その日の主人公の子どもが，一日の最後に教壇に上がり，クラスのみんなから「ほめ言葉のシャワー」を浴びるというもの。

毎日行うことで，子どもたち一人一人が自信をもち，集団生活の場である学級には安心感が広がることが期待される。また，積極型の人間が育ち，秩序のある絆の強い人間関係が築かれることを期待し，学び合う授業づくりの基盤としての在り方を工夫し続ける。

かける言葉の例	期待できる児童像・学級像
・（友達がしてくれたことに対して）ありがとう。 ・○○さんに□□してもらったおかげで△△ができるように（分かるように）なりました。 ・～のとき，がんばってやっていました。　など	・意識して友達の様子をよく見ることで相手のよさを見つけることができる。 ・自信をもち，自分の居場所を感じ取れる学級になる。 ・シャワーのように肯定的な言葉をかけられることにより，自信をもつことができる。 ・どの友達ともさらなる高まりを目指して学び合いができる学級になる。　など

（2） 研究の見通し

３年次計画で行い、本年度はその３年目。

【１年次】　◇　研究主題の理論の構築
　　◇　研究主題の理論に基づく実践検証
【２年次】　◇　研究主題の理論の修正
　　◇　研究主題の理論に基づく実践検証とまとめ
【３年次】（本年度）　◇　研究主題の理論の修正
　　◇　研究主題の理論に基づく実践検証と３年間のまとめ

（3） 評価方法

①　「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」を捉える評価
○　単元テストの観点別学習状況評価の結果分析
　１学期と２学期の変容及び全国比との比較（平均点で行う。）
○　学力テスト結果分析

②　「主体的に学習に取り組む態度」と学ぶ姿の変容のとらえ
○　アンケートによる意識調査（６月と１２月に実施）

③　学びの基盤となる受容的な学級風土の醸成を意識するための「学級力」の評価
○　Q－U テストの分析（全学年）　○　学級力チェックシートの変容
○　グランドデザインによる指導と評価の一体化，月ごとの見直し（週案）

④　教師による児童の実態把握と支援計画の作成
○　「教師から見た児童の意識の変容」の活用（６月と１２月を比較）

⑤　共通実践事項の実施状況チェックと共有
○　共通実践事項チェックシートで振り返り，よくできている点，うまく進められない点を把握・共有し，解決策を考えていく。

5 研究組織

校長

教頭

研究推進員

研究推進部

◎二瓶　齋藤
遠藤　小澤
星　小荒井

学力向上推進部

◎植村　志村
相野谷　星
二瓶

＜現職教育推進に関わって＞
・校内研究推進の立案
・全体研究協議会の企画，運営
・公開研究協議会の運営
・研究主題に迫るための研究推進に関する共通理解
・授業研究による実践と検証
・評価検証

＜学力向上に関わって＞
・学力向上プラン，改善プランの作成
・家庭学習の手引き作成

低学年ブロック	中学年ブロック	高学年ブロック
◎齋藤　石田加　植村 二瓶　志村　石田秀	◎小澤　遠藤　相野谷 伊藤　林　長澤	◎小荒井　星　小島 松本　薄　鈴木

◇アンケートの検討
◇教材研究
◇授業の方向性の共通理解
◇指導案の検討
◇実践研究の積み重ねと資料の累積
◇国語の授業における有効な指導の推進

学力調査部

◎植村　石田加　志村
相野谷　星　伊藤
松本　林

◇学力テスト・単元テストの結果の分析と考察
◇二小スタイルの作成・取り組み状況集約と考察

意識調査部

◎鈴木　齋藤　遠藤
小澤　小島　小荒井
長澤　二瓶

◇意識調査の作成
◇結果の分析と考察
◇文献・資料購入

６ 研究計画

月　日	内　　容
４月２５日（月）	第１回現職教育全体会　　・研究計画　　・共通実践事項の確認
５月１６日（月）	第２回現職教育全体会　　・指導案形式　　・各学年の授業研究の計画
６月	意識調査部　・アンケート内容の検討及び第１回意識調査の実施
６月　８日（水）	低学年ブロック事前研
６月２７日（月）	２年１組授業研究　　授業者：齋藤　典子
６月２８日（火）	２年３組授業研究　　授業者：植村　晶子
６月２９日（水）	公開研究授業第１次案内送付
７月　４日（月）	２年２組授業研究　　授業者：石田　加奈恵　　低学年ブロック事後研
８月１９日（金）	下学年ブロックの指導案検討（１年２組指導案）　低学年ブロック事前研
８月２２日（月）	上学年ブロックの指導案検討（４年２組指導案）
８月２９日（月）	研修「配慮を必要とする児童の理解と対応」 ご指導：会津教育事務所　五十嵐　早苗先生
８月３０日（火）	公開研究授業第２次案内送付
９月　７日（水）	中学年ブロック事前研
９月　８日（木）	高学年ブロック事前研
９月１４日（水）	あすなろ学級授業研究　　授業者：林　啓子
９月１６日（金）	４年１組授業研究　　授業者：小澤　百合子　　中学年ブロック事後研
９月２０日（火）	６年１組授業研究　　授業者：小荒井　俊人
９月２２日（木）	６年２組授業研究　　授業者：松本　貴子　　高学年ブロック事後研
９月２２日（木）	１年１組授業研究　　授業者：二瓶　尚子
９月２７日（火）	下学年ブロック授業研究会　　上学年ブロック授業研究会
９月３０日（金）	公開研究授業　１年２組　　授業者：志村　裕子 ４年２組　　授業者：伊藤　康臣
１０月　５日（水）	なかよし学級授業研究　　授業者：長澤　美和
１０月１２日（水）	高学年ブロック事前研
１０月２６日（水）	５年１組授業研究　　授業者：星　英樹
１１月　２日（水）	５年２組授業研究　　授業者：小島　明広　　高学年ブロック事後研
１１月　２日（水）	中学年ブロック事前研
１１月１６日（水）	３年１組授業研究　　授業者：遠藤　和也
１１月２２日（火）	３年２組授業研究　　授業者：相野谷　祐太　　中学年ブロック事後研
１１月３０日（水）	第３回現職教育全体会　　・研究のまとめに向けて
１２月	第２回意識調査の実施
１月	研究物出品
２月２２日（水）	第４回現職教育全体会　　・次年度研究の見通し

7　研究構想図

＜研究主題＞

「考えの形成」を支える指導の工夫
～読み取るための活動と学び合いを通して～

＜目指す子どもの姿＞

自分で理解したことや友達との学び合いから分かったことを基に，すでに持っている知識や体験と結びつけて考え，より広くより深く考えたり，あるいは自ら修正したりして表現する子ども

＜研究仮説＞

国語科の主に「読むこと」において，効果的な言語活動と学習課題を設定し，感想や考えをもつに至るまでの理解を確かなものにすれば，子どもは自分で理解したことや友達との学び合いから分かったことを基に，すでにもっている知識や体験と結びつけて考え，より広くより深く考えたり，あるいは自ら修正したりして表現するであろう。

国語科の授業において

＜視点１＞ **効果的な言語活動と学習課題の設定**	**＜視点２＞** **感想や考えの表出**

読み取るための活動　　学び合い

知識及び技能 ― 単元における指導事項の把握 ― 思考力，判断力，表現力

学びに向かう力，人間性等

学び合う学級集団づくり

一人一人のよいところを見つけ伝え合う活動 「ほめ言葉のシャワー」 （例）・　友達に対して「ありがとう。」 ・　○○さんに□□してもらったおかげで△△ができるように（分かるように）なりました。等	よりよい学級づくりをするための活動 「学級力の可視化」→〔学級力レーダーチャート〕 ・　学級のめあての設置 ・　月１回のアンケートと話合い